うきせ刀ん

はきく并一
哥を名とをり

Murasaki Shikibu

[v. 3]

PL788
.4
.G4
1654
vol. 3
copy 1
Asian
Japan
Lage

ウツセミ 八一

2004551302

中河ノ宿ニテノ源氏十六才

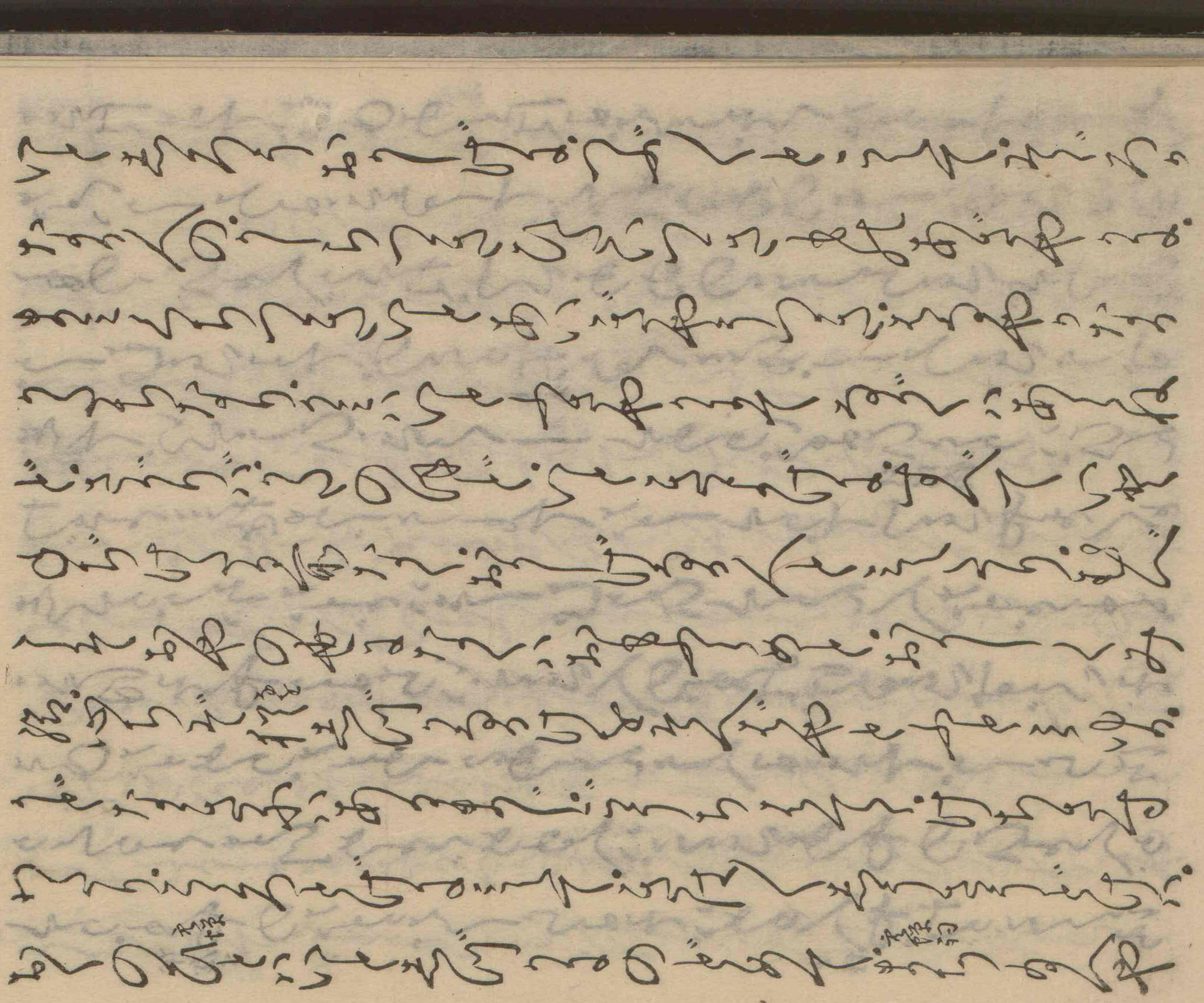
ねられたまはぬまゝには。（源詞）われハかく人ににくまれてもな
らはぬを。こよひなんはじめてうしと世をおもひ
しりぬれば。はづかしくて。ながらふまじくこそおもひ
なりぬれなどのたまへバ。（小君）涙をさへこぼしてふしたり。
（源心）いとらうたしとおぼす。てさぐりのほそくちいさき
ほど。かみのいとながゝらざりしけはひのさまかよ
ひたるも。おもひなしにや。あはれなり。あながちにかゝ
づらひたどりよらんも。ひとわろかるべく。まめ
やかにめざましとおぼしあかしつゝ。れいのやうに
ものたまひまつはさず。夜ふかういでたまへバ。（小君心）このこハ
いとおしくさうざうしとおもふ。（空蝉心）女もなみ〳〵

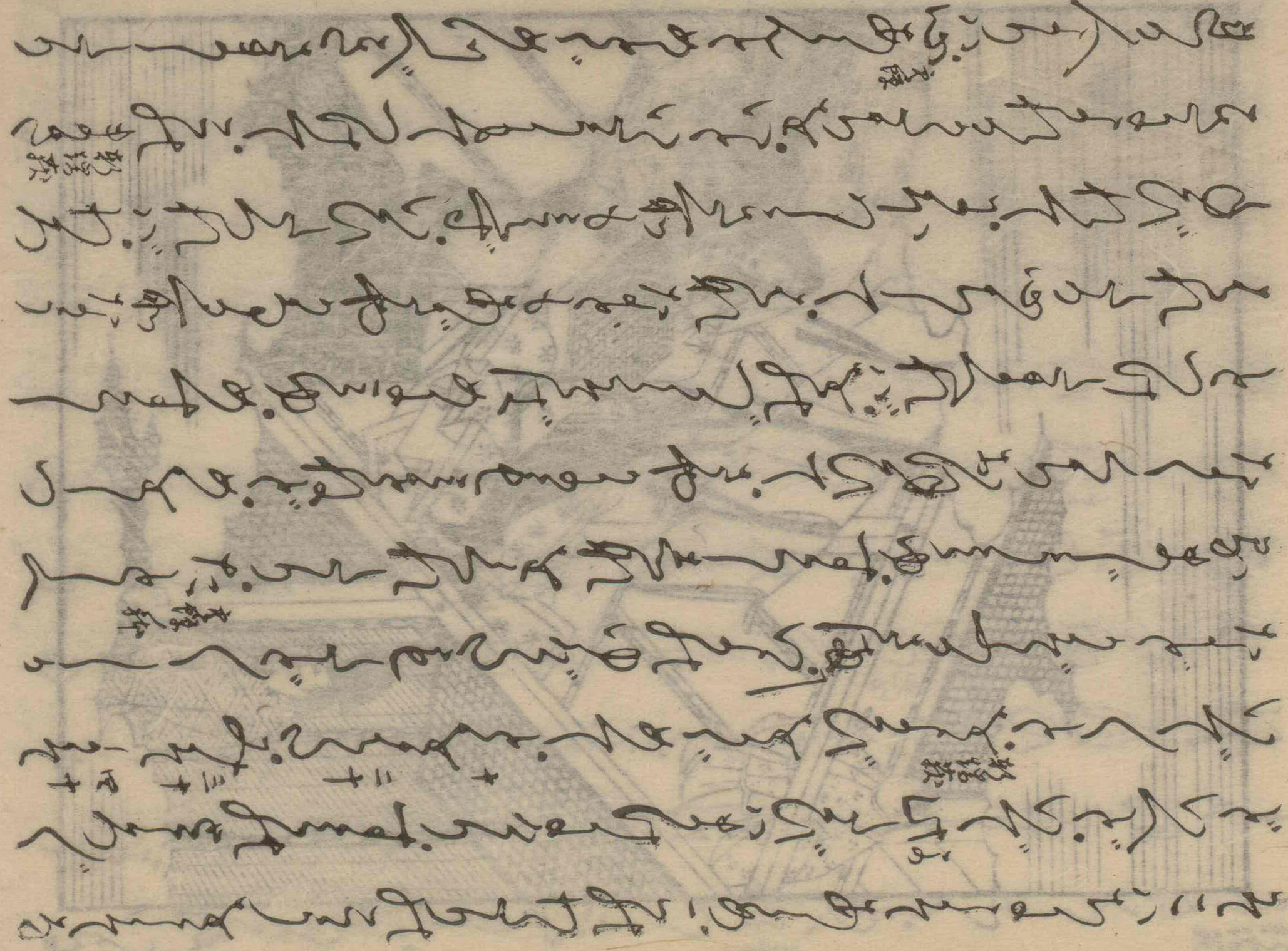
なしずかこそらいそしとおもふは。れをうそこも
こそてなし。おぼしこりはけるとおもふはもやがて
つれなくてやこゝのひなまりしがうからまし。しゐそて
いとおしきれふまひのこゝざらんもうしそあり
べしよき程(かど)まくてとぢめてんとおもふものから。
こゝなしずながめがちなり。(涼)ゐハ心づきなしとは
おぼしなげゝかくてはえやむまじう。れこゝろは
うり。人目ろくおもほしまびて。(涼詞)こゝざこゝはいとつ
らうもうれしくもおぼゆるは。しゐそておもひ人
をど。心ましもしこゝがはずくるし。さばざりぬへき
おりをこそ。こいめんすべくゐぬぢられとのこまひ

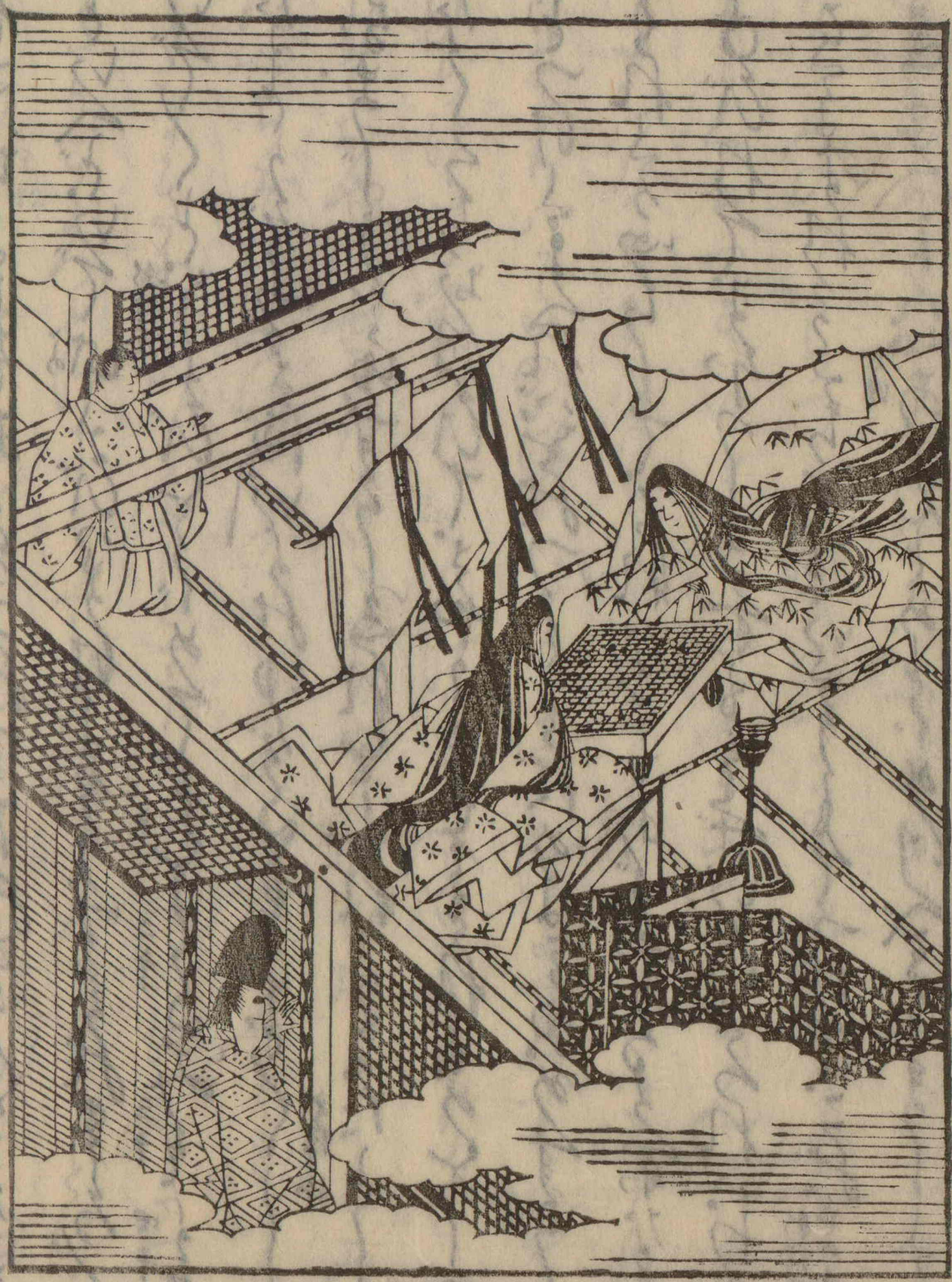
わたれば、わづ（小志心）ともしかれどうらうらとてものゝ
まひまひはすれどうれしうおぼしやり、おさるさ
ゆちるいかるゝんおりまとまちわたるまにされかゝ
くるくるぐりなどして、ぶどちのどやかるゝゆふ
やこれこちこどくしげるゝまぐれは、わが（小志）車（くるま）そ
みそなり（そまり）、これ（源心）こもおさるさをいかるゝんとおぼ
をどされこもえおぼしのどむまじかりかれば
さりげるさすぐまそ門（かど）などさゝぬさまといそ
ぎおさす、ひとゝぬくゝよりひさいれて、おろしさそ
まつり、わ（小志）ゝハなれば、どのゐべなどもことにいれず、
はいをうを須こゝろやすし、ひんがしのつまどり

そくまうりて。我はこなたされずされまうりけり。こう
しらてきのあそりていりめぐらあしはなりと
いふなりぢやぞうあうちゃごのりしはおろされ
さうらへばひまうり西の流うされやらせめて。
碁うちをたまふといふきてむらひぬらんもみづ
やとらひてやとしあゆきいぞらずれのそざ
まいりすめごされいりつらうしくまでちくのぞ。
ひまこゆまよりてぶのしざ碁まみきそりのへば。
これをきかまそてさる屏風もばしのつこそして
まれらるまぢまさるべき碁子などもおかれば
うちかけていざとくいれつゝ火ちらうりとを

たりもやのなかぞしらまそばめる人や（夫婦）わがこゝ語
りくるとまじめとぐめの人ばこゝきあやのひとへが
さゐなめりたまゝかあらんうへまさそうしら法
こさはそやうまちいさき人のまれげるきすぐこそ
しるかかなどハさしむかひたらん人などまも
わざとこ程まじうもそなしたりてつきやをくと
しそいたうひさくしたりいまひとりハひん
がしむきまそのうろ取るくこゆしろきうす
ものひとへがさねおるあのこうちきごろもの
ないがしろまさるしてくれるゐのこしひきゆゑ
こさはまぞむゐあらはまぞうぞくなるもそるしや







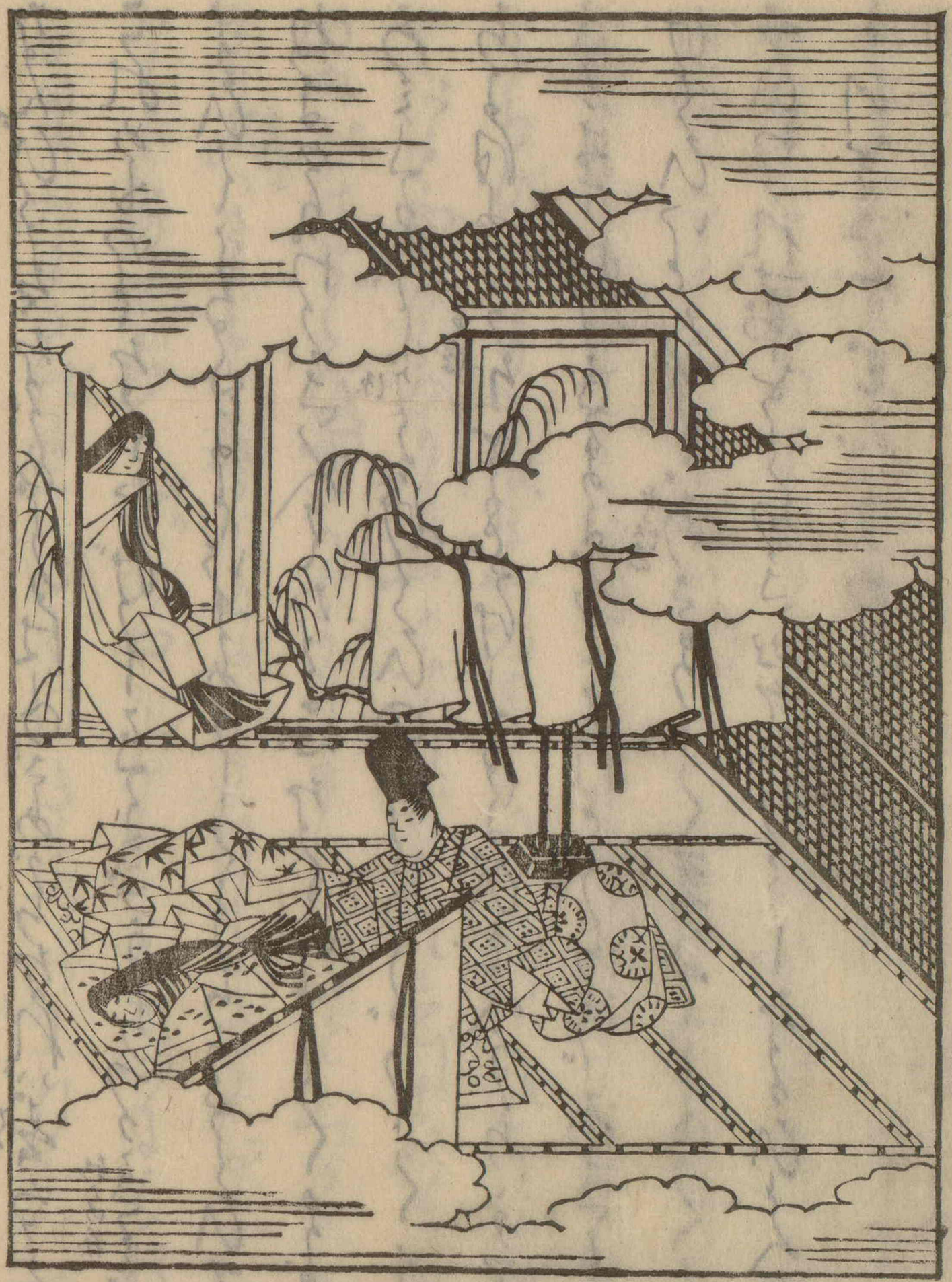
彩瑞菜
まさきくしあい形(ぎやう)つさおかしげるるぬいる
くはこりかはうちとけてほしひなどそぼう
ればすはひおかくえしてさるるまいしおかしさ
ひとぎ夜なりあ(添心)はかしとはおぼしなぐまめ
なしぬれこころはこれもえおぼしたるけまじかり
かりこ(主)給かざりれひとましうちとけたるまくひこ
つくろひそぐめしろうしんべとのことそこのへいく
うちとけたる人のありさ夜かいまみなどいまぐし
給くざりつることなればたまぐろもなりさやかか
かもいとおしなぐるひさしうこのへまほしさま
こぞいぞくる四すれぐやとし出のぬわるどのく

戸ぐちまよりぬるゆゑり。いとうくじけるしとせひ
ゑ。れいなるぬ人侍て。えちうもより侍しず。
さてこしひもやうへしてんとすう。いとあさましう
りうこそあべかれとのゆへバなどてかゝるゝる
うゝり侍なまぐだぐり侍なんとさう程。さもるびし
うしけべさかしこさまこそあるめ。わらはなれど抱の
ぶぐへ人の氣色こゝりべく。しげまれりをとおぼす
女々りごうちとてつるやあんづちそよめさて
ひとぐあぐるくけるひなどもするり。わうざみは
いづくまおもしま寸なるん。このみかうしハさして
んとてなる寸なり。しげまりぬなり。いりてさらバ

ぞくれとのたまふ。(小恋心)しこもいもうとれ(宮隆)れこころはこ
もむ所ゐくまめごちこれば。いひあはせんるるく
て。人ずくなるゝんおりまいれ(そまつ)せんとおもふなり
なり。(源詞)されりこれいもうともこゐるまゐりこれまゐ
いまゝをさせよとのゐへば。(小恋詞)いぞてゝさはそべらんかう
しまはまてそへて御とさゝゆ。(源詞)さし。(源心)されど(ぞ)と
おりしくおぼせど。こゝしとはしらせじ。いとおりしと
おぼして。我ふくるとの心もとなき後のたまふ。
(小恋)しこびハつまり(ど)をたゝさていり。これ人ぞしげまるも
のまなり。(小恋詞)しさうじぐちまゐハねたん。風(ゆさ)吹と
をきとてこゝみひろげて女子ごぐちひんがしの

ひさしまいとあまるねるべしとてれちいる
わらハ人もそるるまいりてつしぬれバ（小志）とぐりそ
らねして犬ありきゝるゝ屏風（びやうぶ）をひろげて。うげ
ほのるりまやをしいれ（そまう）まろ。いかよぞおこがまし
さこともしてとおぼすまいとつまりしれど。
こちびくまゝまやのまゝのるびしひきなげ
て。いとやをしいりまふとすれど。これ志げまわり東
のれぞれそくひやくしかなるしもいと志りり
そりぬ（大隠心）ハさしてますれぬふをうれしさまおもひ
なをど。あやしく夢（ゆめ）のやうなることを。心まくわり
ふらりなきさ（しろ）にて。心とけしろいぶまねしれど

なんひゝなりなりめよりはしさめがちなれば雲なみ
これめもいとなくなげしきまごうちつゝきこ（朽木の萩）
よひくるゝまといまめしくうちゝひて
ねまかりわりさんくなまぶなくいとよくまど
ろこゝろべしかりけひのいとうぐしくう
ちまはふまかりをもたげたるまひとへうちうち
ふりまれすきまゝくれどうちこゞろさより
けゝひいとしりあきましく笑てともかくも
そひわれずやとしらさ出て すゝしなりひとへひ
とりをきてさべり出るかり



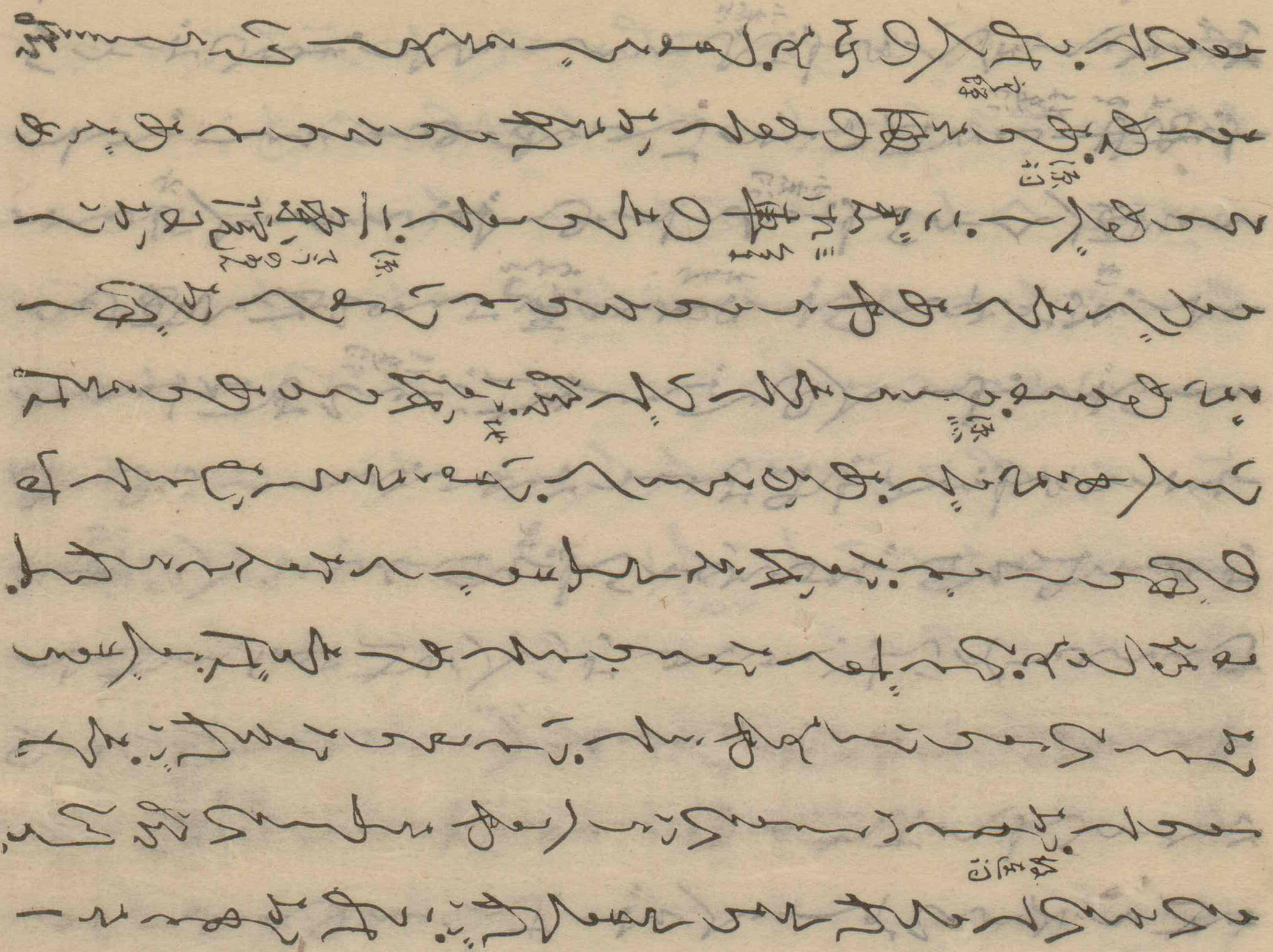
（涼心）君をいりまして。さぐひとりつしらる。心やすく
おぼす。様のしまま二人ぐらうぞつしらるゝ。さあ
としやりてよりまへまゝ。（あり）あしけるひより
ともれくしくおぼゆ。おもほしもよらず
りしいぐるなるさきなどぞ。あやしくかわり
ゝ。やうくみ（軒端萩と）あらたしまて。あさましくそ
ろやましそれど。ひとさぐへとさどりてみたん
もおこがましく。あやしとおもふべし。（中略）ほいの人
とうぐ。ようんもうぐうりのぐるこころあめれど。
かひなくおろまとそおもちめとおぼす。（軒人の萩）のおうし
りつるほかげなるぶいかゞはきんとおぼしなるか

もわろき(比)れころあきくなりかし。やうく(新撰菟)
先さめていとおぼしずあきましさま。何されよう
りしさまてなよ。此心かくいとおしきよういも
なし。世中(よのなか)をまぐさひしぬ程(わど)よりハざれだるん
よりかるまてあしかるもおもひまどハず。まれとも(源心)
しらをじとおもほをばいかにしてかうことぞと
のちるさひめぐらさんもわぐるめるはことまもあら
ねど。あれつらき人(宮垣)の。何るが化ようにつむも。さ
すがるいとおしそれがらびくのれかるたがへること
つけしまひしさ海といとよういひなし給。だと
しん人ハ心しはべそれど。まぐ(新撰菟)いとわるきこうちゝ

さしてさしすぎたるやうなれど。えしもせひわ
ずよく（源心）しとはなれど。はこころとまるべきゆへもか
きゆちして。なほかれうれさ人（女郎）の心をいうじく
いぼすいげこまくひまざれて。うたくるしと思（おぼ）井
たんかくしうねさ人はなりがたきものをと笑（おぼ）寺
ましもあやまくままざれがたくせひいそられ給。
これ人（彩絹茨）のなる心なく。わやかるかけくひもあくれ
なれば。さすがまなさけくしくちぎりをせ給。
人（源司）しりしることしりも。かやうなるはあくれもそふ
ことなん。そうしの人もいひけ。何ひせひ給へよ
つむことなきさましもあくねば。身ながら心まも

えまゝすまじくなんありけり又さるべき人ぐも
ゆかされじりしとうねてむかいくなん。ますれぐる
まちゐへよなどなほくしくうらひ給。人のさひ（新大の萩詞）
侍らんことれとぐしきるなん。えゆ（きこ）九さすまじき
とうらもるくいふなべ（源詞）てひとましせぐしゝ
ゆらめこれちいさ給うへべまつゝへてさゝえんけ
しさもなくもてなしゐへなどいひをさて。れ
ぬきまべしゝろうすき衣（しゝ）ととりていでゐひぬ。
こぶちくゝしゝる後。かうしゐへぐうしろめたう
さひて孫なれぐ。ふとおどろさあとをやとゝとし
あらるゝかいしろぐられしまして。ゆれハしそと

かどろくしくとふ。わづらはしくそ。まろぞといふ。
ふ。君中（よるゝ）はこはなりぞ。なりかやぬとさしがりて
とき海へくといふ。ぶくてあらず。こもとへ出（ゴ）るそ
とて。君（源）をなしいぞ。なまる。暁（あろき）ちろき月ろ海なく
さしいぞ。ふと人のかげそ。かれば。まゐ（後連詞）おはするく
こそとゝふ。ぶんぶれおもとなめり。かしうはあらぬ
おもとれらけぶちかなといふ。ふけ（地）ろき人の常（つね）は
わらはるをいふなりかり。おいぐこれをつゝねて
ありさけとしひて。いまるで今（いま）ちちるびしまひ
なんといふく。われもはしさりいぞくく。まびし（源心）
かれど。えもるをしかへさぞ。わるどのくちちり。



かひそひてかれたちたまへれば。これおもとさし
よりて。おもとはいとうひはうへまやさふしひ給ひ
おとゝひよりけるをやそいとまりなれば。しも
は給つるをひとずくなりとてめしたるばよべまう
のぼりしかど。なかはえしふまじくなんとうれふ。
いへもきかで。あかくらくいまさしむとてす
ぎぬるまゝ。かうしたていで給。なかはかうありさは
かろぐしくあやうかりかりといよくおぼし
こりぬべし。こぞれ車のしりまて。二条院におはし
ましぬ。ありさ殿のまておされかりかりとあぐめ
まひて。れ人の心をつまよくしきとしけうしき給

いとおしうてもれも（さこ）ずいとふうまくこゝろふ
べかめれば弟もうくせひたてぬ。なとゝ（源詞）よそまても
なつかしさいへ（ぞう）斗は志給まじさいらのもけ
まをとりけるゝ弟こそなど心づきるしとせひての
給ありつゝこうちきゝ成さすがはれぞれ志るは（ひさ）
いれてお目とのごもれりこゝ君をおまへはふきて
よろづまうしこゝかけはうしひ給ゝのうはらうしけ
れどつきゆかりまとそえせひたけまじかれと
まめやかまの給をいとまびしとせひたり。志（源）げし
うちやすまへどねられたまたず。れすぐりいそぎ
めしてさしたへたりれふまはあしぞ。たゞてれ

らひのやうまうさすさみこまふ

源うけ蟬（せこ）の身をへてげつこれもとまなば

人がらのなけりしきにとうさのへるを（小志）ふとしろま

ひきいれてもたりうの人（新撰萩源心）もいかるおもふらんと

いとおしかれどうるぐおもほしかへしてれこと

つてもなし。のうすぎぬはこうちされいとなる

りしき人がる志あるを。身ちくなりしつこれ

まゐりこぞかしこるいさこれば。あ（京師）ぞまちつけて

いうじくの給。あさまりしりしにとうまぎりし（京師詞）

ても人のおもふんことさり前なるさるいとなんまり

なまさいとうう心おさるさい心ぞへとうけいかるおも

ほうしんとて、らけうしめのまへびんざりみざまくろ
しくらへど、みれてなうそひらりぞくりて、さすがる
らりて、三絃の音もめけといふまに、をきれあまれし
はなれて、やなぎせふもてなすばいとよろげ
こぞれさりまし。の君も、ゐくらげうしさゆらして、
わらりのまひまそり、まるしるへまるき、ことわれど、
人しれずてうちなげめておそり、こ君のわらりけりく
まうけてもむまのとうづれどもれそうそこともすし
ゆうさましとさひうろろもるくて、ざれしろ心ちる
御哀なるべし。うれなるさんへも、さしてしげもれどい
とあさそろまもあらめれぞしこさぶけりしるを

のけが身なりしぞと・とりかへすもれなりしもど・遣(しの)び
がるされば・これはしこうがこのうつるは
宅蝶(宅蝶ら)のうるはまさく家(つゆ)のこがくれてしのび
志のびまめりて袖(そで)かな

69038
6AP75